

要注意！！ ハチ

スズメバチ、アシナガバチは 特に夏
ミツバチには一年中注意が必要です。

スズメバチ

体長約3cm

8～9月に巣が最大になり、ハチの数が増える。巣は球形。巣に近づくと、カチカチと音を立てて威嚇する。例年数十人が刺され被害が報告される。

アシナガバチ

体長約2.5cm

8～9月に巣が最大になり、ハチの数が増える。巣はおわんを逆さにしたような形で、草むらのなかなど見えにくい所につくられることもある。



ミツバチ

体長約1.2cm～

刺されると針が皮膚に食い込み、抜けにくい。左2つのグループよりも大人しいものの、冬を含め一年中集団で活動することができるため、1年通して注意が必要。



■スズメバチの攻撃

キイロスズメバチの巣	キイロスズメバチ
	

スズメバチ類は外敵に対して巣を守る防衛本能が発達しているため、人などが巣へ接近すると次のような「警戒」から「攻撃」に至る4段階の行動をとることが知られています。

A. 偵察蜂による警戒

巣の数メートル～10メートル以内に近寄ると、侵入者の周囲を飛び回って警戒する。

B. 偵察蜂による威嚇

さらに近づくと、侵入者の周囲をまわりつくように飛び回り、大顎を噛み合わせて「カチカチ」という威嚇音を発する。

C. 巣への間接的刺激に対する攻撃

威嚇を無視したり、巣のある枝や土中の巣の近くを通ったりして巣を振動させると偵察蜂は空中に噴霧したフェロモンだけでなく、興奮した働き蜂によって巣の中に散布された警報フェロモンに反応して集団で侵入者を攻撃する。

D. 巣への直接的刺激・破壊に対する攻撃

巣への直接的刺激や破壊により興奮したハチは一斉に巣を飛び出し、威嚇行動なしにいきなり刺す。

興奮が激しいときには多数のハチの攻撃に加え、噛みついたまま何度も刺すため重傷となることが多い。侵入者を執拗に追いかけて、その距離は数10メートルに達する場合もあり、最も危険な段階である。

■なぜ、襲うのか

オオスズメバチは秋になると、次世代を受け継ぐ繁殖階級があるオスと新女王の幼虫を育てる。幼虫の数は数百頭に達するので、その貪欲な食欲を満たすためには多量のエサを集めなければならない。

オオスズメバチは夏の間、コガネムシやカミキリムシなどの大型昆虫を狩っているが、それらの昆虫が姿を消す秋に、もっともたくさんエサが必要になる。

一方、他のスズメバチ類の巣では、幼虫や蛹は年間を通じて秋が最も多い状態にある。

オオスズメバチはそれに目をつけ、多少の犠牲を払ってでも、力にものをいわせてそれらを攻撃し、略奪する戦略を選んだのである。

——健康で快適な生活環境をめざす——

(株)サニーサニター

■ 本社／新潟市西区流通センター5-4-1 TEL 025-269-1244

■ 長岡営業所／長岡市下柳2-4-38 TEL 0258-27-6570

■ 上越営業所／上越市幸町15-34 TEL 025-525-5817